

コミュニティ くま

私と人とまちの間に

2015.SEP
106号

9

編集発行

公益財団法人 草津市コミュニティ事業団

もくじ CONTENTS

FEATURE

“もしもの備え” ～やってみなけりや、わからない。～

- 2 まちの“いざ”に備える 「やってみなけりや、わからない」
- 4 「ごめんやで」と言い合える間柄をつくる
- 5 防災×運動会=近所力そして近助力
- 6 大切だからこそ、楽しく続ける防災

- 7 ご近所まんが くざつがわ家とお隣さん ～これって、みんなの問題～
That's談
- 8 より道こ道 第2回
- 9 今年もやります!ロクハ感謝祭
- 10 みんなとめん・めん まちセンから夜空の旅へ 夏の星座学習会
- 11 見つけてスッキリ!／ボイス
- 12 熊谷栄三郎の徒然草津 第18回 ドーンの方方

かまどベンチを使った炊き出し訓練

火をおこしたり、火力を調整する…子どもたちのまなざしは真剣そのもの。日ごろ体験できない直火を操るコツはつかめたかな。これもまた「やってみないとわからない」。

「吹きくる風に二筋の冷たい線が混じっている。初秋と呼ばれる季節になったのだ。空が高い。雲が薄い。涼しい鈴の音が、チリンと響いてくるのは、どこかの軒下に吊るされている、夏の名残の風鈴だろうか。」(梨木香歩「家守綺譚」より)
季節の移ろいに対する日本人の感性は豊かな自然と四季のおかげ。いつまでも大切にしたいものです。



齋藤 雅夫さん
馬池町自治会防災部



中谷 緑郎さん
馬池町自治会会長

FEATURE

まちのいざぎに備える 「やってみなけりや、わからない」

馬池町自治会

今日もスーパーで賞味期限を確認して食材を買ったあなたは、ドラッグストアでも絆創膏や医薬品の使用期限を確認していますか。家族の健康を守るように、町内やご近所の地震・火災といった「もしも」に備える。まちの大切な役割です。「防災には限界があります。今は減災という考えで行動しています」という馬池町自治会会長の中谷緑郎さんと防災部の齋藤雅夫さんに防災部の取組みについて聞きました。

使えない体温計

立っているだけで汗ばむ暑い日、4人の男女が馬池町公園に集まりました。今日は防災倉庫の備品の点検日です。集まった男女は馬池町自治会防災部の面々。一般募集で決まったという馬池町防災トレードマーク「救馬くん」が描かれた防災倉庫の中は、今日もぐんぐん温度が上がっています。

いし賞味期限があるのでね。いざという時の救急箱だって、買って備えておけば安心してわけじゃない。以前の点検では、夏場の暑さで体温計の水銀が伸びきっちゃってダメになっていました。よくあるスプレー缶の薬品も暑さで破裂する恐れもあります。こんなことはこうした点検を通じてわかったこと。何でもやってみなけりやわからないものです。」

今では、高温を嫌う備品や場所をとる発電機などは別の防災倉庫に備えています。ちなみに発電機も交代で毎月、始動点検をしているとか。故障や燃料の確認だけでなく、使い方を忘れないための工夫です。2か所の防災倉庫の鍵も自治会長・副会長・自治会防災部など24人が持っている。緊急時には誰かが開けられるようにしています。

いざぎというときのリーダー

馬池町自治会には「自衛消防隊」と「自治会防災部」という2つの組織があります。どちらも町内会の組織ですが町内会発足時からある自衛消防隊は火災が起きた時などの初期消火や混雑の整理などにあたります。メンバーはその年の役員から割り当てられるので基本的には毎年変わります。

阪神・淡路大震災の教訓から市の「自主防災組織」結成の依頼を受け結成されたのが防災部です。

2009年、当時の町内会役員の8人が講習を受け、市の市民防災員の認定を受けスタートしました。今でも規約では「部員は市民防災員の認定を取得した者や

取得する予定の者」と定められています。これはまちの防災・減災活動を自主的に継続して行い、いざぎというときには実際に動ける意識・知識・技術をもったリーダーとなつてもらおう考えによるものです。今では一定の救助や救命の知識・技術をもつ市民防災員14名による部となりました。

齋藤さんは言います。「やってみないとわからないことばかり。器具の使い方や操作も忘れてしまふこともしばしばです。人工呼吸だつて救命講習を4回続けて、やっと間違えることなくでき



▲馬池町防災トレードマーク「救馬くん」





イメージ

るようになりました。講習を受けたから安心するのではなく、繰り返し行うことで身につきます。ここでも「やってみなければわからない」が出てきました。

まちの見え方が変わった

「24年前にここに引っ越してきました。当時は仕事ばかりで、地域のことも知らない、知り合いもない状態。ある年、町内会の役員を引き受けることとなり自治会の副会長になりました。すると町内を歩いているだけでも、危ないところ・災害時にまちに足りないものまで気づくようになり

ました。今ではドラッグストアで新しいタイプの絆創膏や包帯などがあるとつい手に取って見たくなるし、使用期限なんかも見るとよくなりました。また、まちには色々な経歴をもつ人がいるとわかってきました。意識することでまちの見え方が変わってきたのです。2つの組織のあり方は今後の検討課題ですが、順番で広く住民にまちの防災について関心をもってもらえる自衛消防隊と、実際のリーダーとなってもらいたい防災部、今のところ両輪として上手く機能しています。」

今を知る生の情報

やってみなければわからない。これまで8年間、防災部の活動をやってきてわかってきたことがあるそうです。それは、リーダーだけが知っているだけではダメだということ。当たり前ですが、実際の「いざ」では住民同士や隣近所で助け合わなければなりません。大きな地震や火事だけでなく、最近では異常気象による集中豪雨から身近で悪質な犯罪まで私たちを取り巻く「いざ」は広がっています。

「そこで大切になるのが『生の情報』です。『この家は高齢者の



イメージ

独り暮らしだ。認知症の方がいる」といった情報に加え、『今は田舎に帰っている・怪我や病気で入院している』といった「今を知る」「生の情報」が大切です。みんなが把握してなくても、誰かがその人の「今」を知っておくこと。それには日ごろの隣近所の付き合いが重要です。そのため、町内清掃・炊き出し訓練、防災地図の作成など、防災部ではできるだけ顔を会わせる機会をつくるように心がけています。こうした機会が増えるほど、情報が行き交い、「いざ」のときに活かされると思っています。将来的には班ごとに防災訓練をできたらいいなと思っています。」

すばやく重なりあう

「草津市災害時要援護者登録制度を始めとした「いざ」というときのための公の制度がうまく活用されるためには、いくつかの情報がすばやく重なり合うことが必要です。住民個人のプライベートな情報が集まる民生委員や町内会、その人の「今」を知る生きた情報を持つ各班（組）、それぞれのつながりが命を救います。まちづくり協議会はそれらの地域と連携し、あるいは行政とのパイプ役になっていく必要があります。迅速な行動と避難、適切な支援ができるよう町内では日ごろのつながりをつくってほしいし、まち協でも学区としての動き方も考えていきたい」矢倉学区未来のまち協議会の会長も務める中谷さんは熱意を込めて話してくれました。



イメージ

この取材のあと矢倉学区未来のまち協議会では消防署員や消防団のOBをはじめとして各町内の数名から構成する「災害対策本部」を発足。万が一、災害が起こったときの市の災害対策本部と現場となる各町内会の防災組織とをつなぐ重要な役割として期待されます。市民センターと各町内にはそれぞれ小型無線機が配付されるなど「いざ」に備えています。

馬池町自治会

京滋バイパスを挟むように東矢倉を中心としたまち。昭和48年に開発され、現在約670世帯2000人が暮らす。町内会設立当時に自衛消防隊が発足しました。

「ごめんやで」と言う合える間柄をつくる

NPO法人ディフェンス 宮下千代美さん

障害者の自立生活を支援するNPO法人ディフェンスの機関紙からの抜粋です。あの東日本大震災があった2011年の暮れに、どうしても書き記したかったという号の編集後記から引きました。東日本大震災の障害者の心身に与えた大きな影響によって発信された数々のメッセージの最後に記された、まちやまちとのつながりへの感謝の気持ち。その背景には何があるのでしょうか。

今年は3月に歴史的な災害が起こってしまいました。(略)事務所は昔ながらの町並みにあります。細い路地、立て込む町内で、今回のような大地震があれば、大変なことになるでしょう。しかし、ここには強いつながりがあります。それは住民だけでなく、私たちのような小さな団体にも届いています。(略)このまちで活動していて本当に良かったと感謝しています。

「Defense」2011年12月1日号編集後記より

あなたたちのような人には…

て、活動はもとより自分たち自身も地域で知ってもらう努力をしたと宮下さんは言います。

近所の人と出会ったら自分たちから挨拶する、事務所の前はいつも掃除をする、お誘いいただいた地元の行事には参加するなど、ささやかですが当たり前のことを積み重ねてきました。今では、町内会に入り、近所の人が事務所の前にお花を植えてくださったり、折に触れては事務所をのぞいてくださるようになりました。互いを知るためには、まずは自分たちから心を開いていくことなんです。

多くの人の顔を

宮下さんは曰く、一人でも多くの人が障害者と出会ったり、話したりするきっかけをつくるように心を砕いています。それをきっかけに、私たちの周りには「障害者」という特別な人ではなく「生活するために支援を必要とする障害のあるAさん」とい

「ごめんやで

一方で、障害者も積極的にまちに出る、社会に参加することを宮下さんは勧めます。

高齢者の経験は図書館

「バリアフリーやユニバーサルデザインは目に見えるわかりやすいまちづくりですが、その整備には多額のお金も時間もかかり

草津宿本陣の近く、昔ながらの町並みが今も残る界隈の路地を入るとディフェンスの事務所があります。「ここに事務所を構えて16年になります。ここに落ち着くまで随分と苦労しました。私と車イスの女性が二人であちこちと場所を探しました。今では考えられませんが、当時は多くの駅で、車イスの人は貨物用エレベーターに乗っていた時代です。事務所として貸してほしいと願っても、『悪いけど、あなたたちのような人には…』と文字どおり扉を閉められたことだってありました。

「障害者の中には、ここで災害があつたらあきらめるしかないと言つ人もいます。障害者が外に出るのは勇気がいります。介助が必要な人なら気兼ねもあつて、

「あつちにあるで、行ってみよか」と一緒に探してくれ、障害者ユーザーの場所を確認することができました。障害者が避難場所がいちばん困るのはトイレだということも、まちの皆さんに伝えておきたかったとか。」

「ごめんやで」といふ言葉は、自分たちが悪いことをしたから理解してもらえない「なんて漠然と思つていた分、シヨックも大きかったですね。また、障害者が地域で生きる難しさもつくづく感じました。」

NPO法人ディフェンス
障害者及び高齢者が地域で自立した生活を営むための支援を中心に当事者も参画して活動するNPO法人

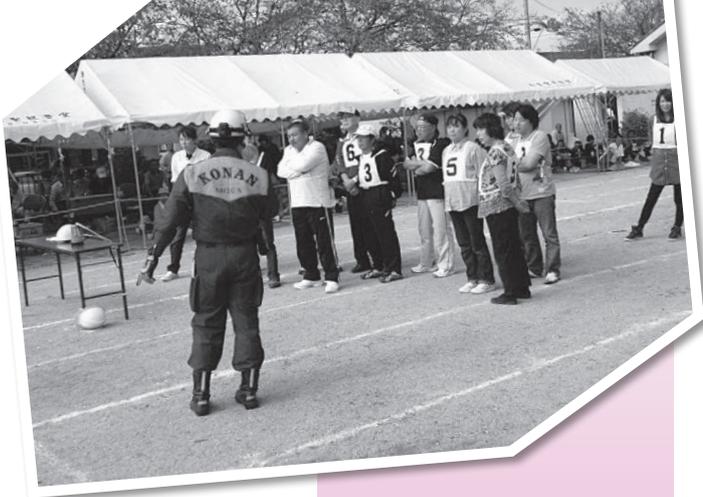
ます。まずは、まちに暮らす一人ひとりが『お互いさま』と謙虚になつてちよつとずつ譲り合う気持ち、『ごめんやで』と言つてお願いできる間柄、こういう人の心のつながりが私たちにできる防災だと思ひます。高齢者の経験はまるごと生きた図書館といわれまふ。歳を重ねてこられた分だけ経験や『いざ』というときの知恵もお待ちです。経験や知恵がたくさ

んあるつて、まちにはとても心強いこと。だから子どもたちや若い人たちと交流する機会がたくさんあればいいですね。高齢者だからつて出番がないのはもつたない。高齢者も障害者も在住外国人も、一人ひとりの顔を思い浮かべ、互いを気遣い、尊重し合うところこそ災害に強いまちになつていくのではないでしょつか。」と宮下さん。

インタビューを終え事務所を出たとき、プランターに咲く花を見ました。道を行き来する人の目を楽しませ、話のきっかけをつくつてくれるこの花は、ディフェンスとまちをつなぐ現れでもあり、「私たちはここにいますよ」と伝えてくれているようでもあり、入るときとは違つた表情を見せてくれていました。



イメージ



競つのは速さと正確さ

4人で「よーいドン」。一人は水消火器の的を枠からはじき出し、

FEATURE

防災×運動会 II 近所力そして近助力

志那町吉田自治会 スポーツ&防災フェスタ in 吉田

あなたのまちの防災訓練にはたくさんの方が参加されていますか。集まってくるのはいつも同じ顔ぶれ、なんて困つている町内会もありそうです。「防災×運動会」というユニークな計算で驚異の参加率を誇る志那町吉田自治会の「スポーツ&防災フェスタ in 吉田」を町会長の吉川康佳さんに聞きました。

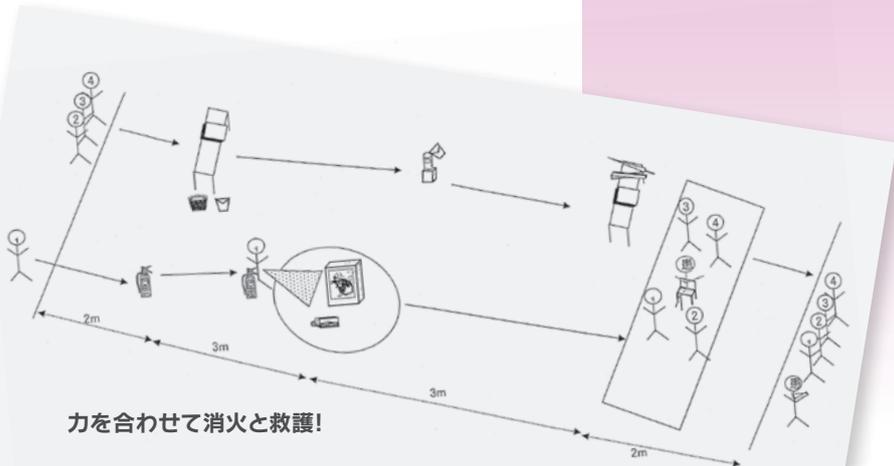
3人は紙で応急コップを作つて、水バケツから水を汲んで、ペットボトルを一杯にします。最後は4人で負傷者の応急処置を行い、みんなでゴール。「力を合わせて消火と救護！」の種目です。

もうひとつ「情報は正確に！」もご紹介。スタートで看板に記された物品を10人がメガホンでバトン代わりに伝言ゲーム。後ろに控える4人が簡易担架を作つ

て、その上に伝言ゲームで伝えられた物品を載せてゴールまで帰つてきます。早さもさることながら情報伝達の正確さも得点に反映されるので気を抜けません。こんなユニークな種目を運動会に取り入れたのが志那町吉田自治会です。

さあ、あなたの出番です

午前中は一般的な競技が続き、子どもたちや高齢者の歓声が吉田運動公園に響きます。昼食を挟み、午後にはお父さん、お母さんの腕の見せ所。先ほどの競技を中心としたミニ防災フェスタが始まる段取りとなります。そう、昼食にもこだわりがあります。町内の主婦が中心とな



力を合わせて消火と救護!

り運営役員分の炊き出しを行ったり、組ごとにおにぎり・付け合せ汁物だけで昼食を済ませます。以前は組ごとに弁当を注文したりしていました。非常時の炊き出しを兼ねてメニューを統一しました。やはりこういう経験がいざというときに役立ちます。習うより慣れろ、ですね。

防災×運動会

この運動会はなんと平成10年から続いています。もちろんそれまでも運動会はあったのですが、子どもや高齢者向きのものに種目が偏り、中年・壮年層の参加が芳しくないのが悩みでした。それと防災の取り組みといえば、小型動力ポンプの点検・放水訓練・消火栓点検だけでした。そこで当時町会長だった本間道明さんの「防災×運動会」のユニークな発案で始まったのがこの運動会です。

この運動会は消防署の協力が欠かせません。競技種目の内容やルール説明、ジャッジも若手の消防署員が行ってくれます。この他にもD-I-G訓練(災害図上訓練)や救急訓練、起震車による地震体験など初回からずっとバックアップしてくれています。「プロの意見」を取り入れつつ、楽しみながら

ら防災を学ぶためのプログラムづくりが今も行われています。

近所力は近助カ

志那町吉田は明治29年の台風による水害の苦い経験があります。そのため「地域の防災を考えなければ」との高い防災意識が住民の中に受け継がれている土地柄もあり「防災×運動会」のユニークな取組は自然と受け入れられました。その証拠に当日は7組に分かれた90戸ほとんどが参加し、組ごとに設けられたテントも満杯状態。

企画や準備などこれまで尽力された自主防災隊の皆さんの姿は当日、そこにありません。町内のほとんど全戸が参加する運動会なので、火事場泥棒、いや運動会泥棒に備え町中の見廻りパトロールをしているとか。防災をしながら防犯も怠らない、いやはや脱帽です。



イメージ

志那町吉田

常盤学区の浜街道と葉山川が交差する地点から北西にあります。「砂擦りの藤」で有名な「三大神社」を中心に、約90世帯の家屋が並ぶまちです。

大切だからこそ、楽しく続ける防災

グリーンハイツ北町自主防災隊 矢原 功さん

火災警報器

設置が義務化される前から町内会で呼びかけ、高齢などで取り付けが難しい家には自主防災隊が代わりに取り付けてきました。まとめて購入することで安価になるとともに、忘れがちな電池の交換時期も町内会で把握できるから安心。「〇〇さん、今年が交換時期ですよ」

何かあったらここに連絡

災害時の要援護者の一覧や、万が一の際の連絡先は役員個人が保管するのではなく、保管する場所を町内で決め、「いざ」という時には必要な者が見ることができるようになっています。役員が留守だったり、役員自身に何かある場合だってあります。「おかしい!」と近所からの相談を受け、緊急連絡先である家族に連絡して救助できたことも。「個人情報守秘義務をしっかりと守りながらも、何かあったときには誰もが使うことができる体制づくりが大切」との姿勢で町内みんなでルールを定めています。

緊急連絡網の訓練

住民にいち早く連絡するための緊急連絡網をつくっています。連絡先の確認も兼ねて年に一回は全世帯対象に訓練で連絡を回します。今度は留守宅が多くなる昼間にも訓練してみるとか。

住民の多くがリタイア世代だというグリーンハイツ北町町内会ではすべての家の玄関先に真っ赤な消火バケツが並びます。まちの防災活動に取り組む自主防災隊のメンバーは90名。全戸で195世帯というから、まちの約半分の世帯がメンバー。消火訓練や救命救急講習、火の用心パトロールなど通常の活動のほかにも、ならではの取組みがあります。

道草を食う!? 防災フェスティバル

“もしもの時”にこそ生きてくのが日ごろからのつながり。夏まつりの他にも、春には桜まつり、秋には防災フェスティバルと意識的に住民同士が顔を合わせる機会をつくっています。大切なのは顔を合わせる、つまり参加してもらうこと。だから防災フェスティバルにも工夫があります。防災の啓発や訓練の他に、大声コンテストや道草を食う企画もあります。道草を食う?もちろん「寄り道をする」意味ではありません。非常時にでも食べることができる身近にある植物や魚を知るため、実際に調理して食べてみます。本当に道草を食うわけです。

「防災フェスティバルは楽しむことを第一にしているので参加者も多いんです。みんなに出てきてもらう機会とするには、参加者だけでなく企画する側も楽しくないと続きません。住民同士のつながりを普段からつくっておくことは、防災機能を維持するうえでとても大切なことですね」。

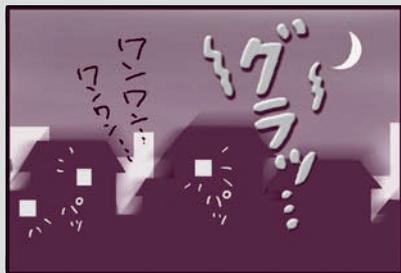
遊び心を大切に、楽しみながら、まちのつながりを育むグリーンハイツ北町です。



くさつがわ家とお隣さん ～これって、みんなの問題～

かれこれ40年の「ふれあいタウン」。

どこにでもあるようなこの町で、今日も繰り広げられる今ドキご近所のちょとこなれた毎日。楽しくも少し考えてしまう。もしかして…これって、みんなの問題かも。



慌てない 慌てない

もしも今、大地震がきたら…。

セン太さんの慌てよう、「他人ごとじゃないぞ」と思った人もいるのでは。あなたのお宅では万が一の「備え」は大丈夫ですか。災害はいつ、どこで起きるかわかりません。市民の命や財産を守るのは役所の大切な役割ですが、役所だって被災するし、すぐに動けない場合のほうがむしろ多いのも知っています。そう、その時、自分や家族の命を守るのはあなた自身なのです。防災・減災の知識や情報にアンテナを張る。生きるために必要なものをいつでも持ち出せる状態にしておく。家族と「いざ」というときのことを決めておく…。備えておくべきことはたくさんあります。今からでも遅くありません。



とは言っても当然、自分たちだけでは守りきれないのも、また災害。自分で守りたくても守れない人だっています。私たちは「阪神・淡路」「東日本」の震災をはじめ、様々な災害でかけがえのない犠牲を伴いながら、たくさんの教訓を得てきました。なかでも近所力やまちでの人と人のつながりの大切さを今更ながら見直すこととなりました。「遠くの親せきより近くの他人」なんて言葉もあるくらい、自然災害の前では、そのまちに暮らす人々こそが運命共同体。もちろん「万が一」に備えた公の制度はあるものの、それらが有効に機能する前提は、まちとしての備えや日ごろのつながりがあってこそ、なんですね。



たとえば情報。あなたは隣近所にどんな人が暮らしているか知っていますか。家族は？その人が避難するときに困難なことはありませんか。万が一の連絡先は知っていますか。旅行や出張、はたまた入院中ではありませんか。たとえば防災備品。ライフラインが途絶えるかもしれません。命を救うために必要な道具があるかもしれません。たとえば避難場所。あなたはどこに避難すれば良いですか。水や食料はどのように届きますか。そこは雨風や暑さ寒さから家族を守ってくれますか。トイレはどうなりますか。混みとした状況の中で目の前の命をつなぐことはできますか。あなた自身は「たすけて～」ということができますか。



「自助→共助→公助」とよく耳にしますが、一刻を争う災害時ほどこの言葉をかみしめるときはありません。とりわけ、まちや隣近所で助け合う「共助」は緊急時にもっとも頼りになるセーフティーネット。この絆が太ければ太いほど、災害に強いまちと言えるのかもしれませんが。そしてそれは日ごろの人と人のつながりこそが、この網を丈夫にしていってくれることは言うまでもありません、ね。

さく・com-com / え・まんじゅう

これってやっぱり、みんなの問題。



防 災

防災についての身の周りがあるつぶやき・雑談を集めてみました。

- 隣の人も高齢でいざというときには助け合う人がいない。2階で寝ているので降りられるか心配。
- マンションの理事長に選ばれ、防火管理者として講習を受けました。でも、もし火災が発生し、死傷者が出た場合は責任を追及されるとも聞いた。そんな責任は負いきれない。
- 何かあったときに代わりに伝えてもらうため、両隣の家と田舎や親戚・子どもの連絡先を交換しています。
- 非常袋には水や軍手のほかに古い靴を入れてます。
- マンションなので地震の時は揺れがひどい。L字金具・突っ張り棒などですべての家具を固定し、窓にはガラス飛散防止フィルムを貼っています。
- 個人情報だからといって情報を隠していると、「いざ」というとき命を守ることができないと思う。
- 「いざ」というときは、そこにあるものでいかに工夫するか。運動会の借り物競争なんかで「会場にあるもので担架をつくれ」なんて指令も良いかも。
- 2年前の豪雨では汚水槽があふれトイレが逆流するかと心配した。汚水があふれると井戸水も使用できなくなるし。
- 滋賀県は災害が少なく本当に恵まれている。ありがたい反面、市民の関心が薄くなっているような気がする。これが怖い。

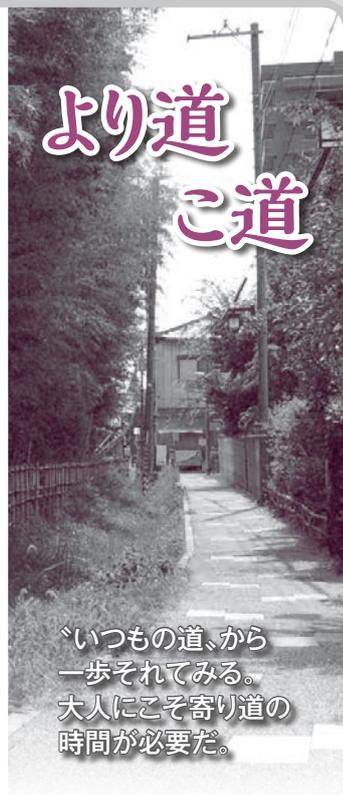


この水は本陣の足洗場にも引き込まれていました。

今回は旧草津川の栄橋から今も残る草津宿内の脇道や小路を紹介します。
堤防から本陣の北西角にある「お除ケ門」へ。乾門とも言われ、瓦に犬と猪が彫られています。横に続く道は立木神社へと続く「お除ケ道」。本陣の主客が非常の際に避難する道でした。堀と敷に囲まれた本陣横を進むと「小川小路」と交差します。今は暗渠となりましたが下が流れるのは郡上川です。

小川小路を本陣に沿って進みます。東海道を横切り暫く歩くとようやく郡上川が姿を見せまします。案内板に描かれた鯉がかつての郡上川の豊かな水量をうかがわせてくれます。
この辺りにくると、3つのお寺が見えます。これらを含めて東海道と平行する東の脇道には立木神社まで7カ寺あり、言わば草津宿の寺町通りです。高い建物が少なかったころには堤防からお寺の屋根が一直線上に並ぶ様は壮観だったと聞きます。
脇道と「本陣小路」が出型に交差する角の料亭「魚寅楼」は、玄関、塀、奥座敷が国の登録文化財となっています。なんと大正元(1912)年の『滋賀県ガイドブック』に紹介されました。

より道 こ道

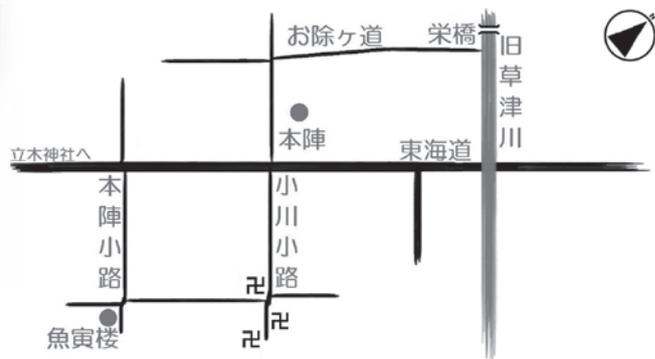


「いつもの道、から一歩それてみる。大人にこそ寄り道の時間が必要だ。」

第2回 ● 本陣 いざいざ のための逃げ道

石田 はま子

本陣小路沿いには江戸時代、篤姫や14代将軍・家茂が利用したもう一つの本陣「九蔵本陣」がありました。この出型交差は「筋違い」と言い、見通しをわざと悪くする宿内の防御政策です。東海道を交差する小路には多く見られますが、ここが顕著に現れています。この脇道と冒頭のお除ケ道は共に立木神社へとつながっています。



50 株式会社 **三井田商事**

JR南草津駅前に移転しまして4年目を迎えました。弊社は京都府下及び滋賀県下でOA機器を販売し、自社でメンテナンスをしております。又、企業・一般の方への水の宅配事業も展開しております。弊社も地域と共に発展したいと考え、**土曜出勤日には駅前及び会社周辺の清掃活動を実施**しております。今後も地域に貢献し、共に成長していけるよう日々努力して参りたいと考えております。

滋賀営業所 / 〒525-0050 滋賀県草津市南草津1丁目1-5
TEL:077-598-1611 FAX:077-598-1651

スマイ印刷は、自然環境を守る地球に優しい製品づくり「エコ印刷」に取り組んでいます。

SUMAI

株式会社スマイ印刷 sumaiprint.com
 本社:520-3014 滋賀県栗東市川辺568-2 p:077-552-1045 f:077-552-0890
 東京オフィス:103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4階 p:03-5201-3525
 甲賀水口ファクトリーPF1:528-0068 滋賀県甲賀市水口町ひのきが丘36-6 p:0748-63-1045

今年もやります！

ロクハ感謝祭

緑・水・そして憩い…いつもロクハ公園にお越しいただきありがとうございます。

この感謝の気持ちを皆さんにお届けするため、「ロクハ感謝祭」を今年も開催。当日は「草津市緑化フェア」も同時開催。

子どもからおとなまで、いつまでも愛されるロクハ公園をこれからも皆さんと創っていきます！



日時 **10月24日(土)** 10:00~15:00

*雨天の場合は翌日

会場 **ロクハ公園多目的広場周辺**および
野外ステージ

- 内容 ● ふれあい動物園
● フリーマーケット
● こども乗り物(ミニ新幹線)
● 模擬店
● ステージパフォーマンス ほか

入場
無料

問合せ 草津市公園事務所・ロクハ公園
草津市追分7丁目11番2号

☎564-3838 ☎564-4152

詳しくは <http://park-698.net/>

ひとりで悩まないで！まずはお電話を！
くらしサポートセンターしが草津がお手伝いします



くらしサポートセンターしが草津

くらし何でも相談

TEL:077-564-5512

住所：草津市大路1丁目1-1 エキ932 4F406

センターへの相談は無料です。

- くらしサポートセンターしが TEL: 077-522-4600
- くらしサポートセンターしが大津 TEL: 077-572-7720
- くらしサポートセンターしが彦根 TEL: 0749-27-3500
- くらしサポートセンターしが近江八幡 TEL: 0748-37-5522

読売新聞



街の安心、安全、
教育、環境を
応援していきます。

草津五店会 TEL 077-568-2146

まちセンの仲間にインタビュー



草津今村組 ❖

よさこい踊り、ソーラン踊りなどのダンスを通じて、心の成長を大切にしています。

「子どもたちには自発的に行動するか・自分で考える力が大事であることをいつも伝えています。しかし一人で

は乗り越えられない壁にぶつかった時は、我が事として真剣に知恵を出し合い、皆で解決策を導くプロセスも体験してほしい。」と代表者は話します。

子どもたちは、喜び・悲しみなどの感情を体いっぱいダンスで表現しています。活動の成果は、草津宿場まつりなどで発表し、今後は高齢者・福祉施設などの訪問に取り組む予定とか。優しく見守る大人たちに囲まれ様々な人と交流することで、子どもたちが何かを感じ取り、一段と心の成長ができると感じる活動です。

滋賀HALサークル ❖



「性」を人権として捉え、自分の“からだ”について正しい知識を得ることは、ありのままの自分を受け入れ、悩みや不安な気持ちを解消することに繋がります。子どもから大人まで、理解を深めてもらうためのセミナーを開催したり、自主学習会で学び合ったりしています。ネットなどで根拠のあいまいな情報が溢れる今、正しい知識を選び取る力をつけてもらえるよう、メンバー各々が学習会で身につけたことを教育現場などの活動で実践しています。実際に悩んでいる人から相談を受けることもあるとか。性別を越えて、皆が自分らしく生きることを一緒になって真剣に考えてくれている団体ですね。



びわこてらこや ❖

平成24年に発足し、学生9人で活動しています。

小学1~6年生の子どもたちを対象にしたイベントを、企画から実施まで行っています。約50人もの子どもたちが異なる学区から集まり、ふだん会うことの少ない大学・高校生のお兄さんお姉さんと遊びながら、年齢が違う人との関わり方を身につけていきます。

市内の公共施設や公園などで、自分たちが作ったワラジをはいての鬼ごっこ・カレーづくり・昔遊び体験・陶芸体験など子どもたちがワクワクするような企画を子どもの目線で楽しみながら考えています。

*びわこてらこやは「ひとまちキラリ助成事業」(草津市コミュニティ事業団)の採択団体です。

みんなとめん・めん 通算47号

お問い合わせ先 ● まちづくりセンター ☎ 562-9240 ☎ 562-9340

✉ machi@kusatsu.or.jp

このコーナーは、まちづくりセンターの登録団体でつくる「運営協議会」が担当します。運営協議会では、それぞれ自身の活動から少し離れて「みんなの場所」としての、センターの役割やまちのことを考えながら、みんなで一歩ずつ成長する場所です。

みんなとまちづくりセンター
めん・めん

和・輪・What



まちセンから夜空の旅へ 夏の星座学習会

運営協議会では七夕を目前にした7月4日(土)、立命館大学学生サークル「草津天文研究会」と協力し、地域の子どもたちと交流することを目的に「夏の星座学習会」を開催しました。

七夕や星座についてのお話、手づくりのプラネタリウムで星空体験をし、保護者も一緒に七夕飾りを作り

ました。お兄ちゃん、お姉ちゃんたちと子どもたちが一緒に学び、遊ぶ、楽しい交流の場となりました。参加した子どもたちの「夜に望遠鏡で星を見たい!」との声には、「また機会が持てるよう次も頑張ろう」と運営協議会も勇気づけられました。七夕飾りに書いた子どもたちの願い事、叶うといいな。



見つけて ズキリ!

どっか ふるさと草津“変”

市内の小学生は学習田で米作り体験をします。金色の穂が垂れ下がり実りの秋の風景が見られるようになると、地域の方の協力も得て稲刈りをします。自分たちが作った新米の味は、また格別なのでしょうね。下のイラストには上のイラストとちがう部分があります。まちがっている部分を答えてね。



イラスト：大村恵（編集ボランティア）

応募方法

ハガキに①答え②郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号③今号の感想を添えて下記まで。FAX、メールでのご応募もお待ちしております。

※切...9月30日(水) 当日消印有効

宛先

〒525-0037 草津市西大路町9番6号
 (公財)草津市コミュニティ事業団
 「コミュニティくさつ9月号」係
 ☐ com-com@mx.biwa.ne.jp
 ☎ 562-9340

プレゼント

正解者の中から抽選で「草津クリアホール開館記念事業 劇団四季ファミリーミュージカル 王子とこじき」のペア招待券(1人3000円相当)を4組様にプレゼント。当選者には10/6(火)までに招待券を発送します。

- 草津クリアホール開館記念事業
劇団四季ファミリーミュージカル 王子とこじき
草津クリアホール
10月12日(月・祝) 16:00 開演
- お問い合わせ先
草津クリアホール ☎ 564-5815

前回の 答え



たくさんのご応募ありがとうございました。

※ご応募いただいた内容は、プレゼントの発送および今後の誌面づくりに活用し、それ以外の目的で個人情報を公表・利用することはありません。

ポイント

みんなの声と笑顔をお届けします。

『運動会といえば』

クリアホール



なごみの郷



まちセン



ロクハ公園



ロクハ荘



アミカホール



熊谷栄三郎の 徒然草津 つれづれくさつ

第18回

ドーンの行方

熊谷栄三郎



今年、草津のわが家でもよく聞こえた。ドーン。ドーン。ドーン。

去年は、いくら窓を開け、耳をすましても聞こえなかった。

「びわ湖大花火大会」の打ち上げ音のことである。去年は八月八日、今年も七日だった。

例年この宵は、家でテレビの打ち上げ実況を見ながら、数秒後はるばる大津の空からやってくる音を確認しては「うん、来た来た、音が届いたぞ」と、なぜか満足してきた。

が、去年は届かなかった。もの足りなかった。翌日、知人たちが同じことを言った。守山の奥野夫人もその一人で「歳とって、耳が悪くなったんかしら」とぼやいてはった。

なのに不思議なことに京都へは届いたらしかった。京都御所近くのマンションに住む女性と、向日町市に住む彼女の妹も、珍しい音に気付き、電話で連絡しあつて、どうやら大津の花火の音だと推測したという。

これ、どういうことか。「もし

や上空の風向きのせい?」。わが頭に花火のように偉大なる?着想が花開き、数日後、彦根地方気象台へ電話してみた。

果たして、花火の時の大津上空は、東北東の風。京都の方へ吹く風だった。

今年も電話してみた。午後八時ごろから南よりの風、つまり草津の方へ吹いてくる風だった。やつぱり、と鼻がうごめいた。

とはいえ音の伝播は、風力や湿度も関係しているから、早計なことは言えない。言えるのは、もし建物などの関係で、空からの音が届かなくなったら、寂しいだろうなということ。もちろんヘリコプターの騒音などは御免だが、遠くからの音を染しむ芭蕉の句がある。「花の雲鐘は上野か浅草か」。

そうそう昨年気象台に電話した際、係の人が「それ面白い着想ですね」とおだててくれたので、三回もわが名を名乗ったことを思い出した。電話は気象まかせの花火音ではないから、一回で相手に届いたはずなのに。

広告掲載募集

本誌への広告掲載を希望する団体または企業を募集します。ただし企業の場合は本誌の趣旨を理解した上で、物品やサービスの販売でなく、企業の地域貢献や社会貢献の周知に限ります。

● 1回1枠(名刺サイズ)5,000円

コミュニティくさつ

● 約57,000部発行(年4回)

● 市内全戸配布のほか、市内公共施設や銀行等に配架

● 申込み・問合せ ●

(公財)草津市コミュニティ事業団 まちづくり振興課内
コミュニティくさつ編集部

編集後記

- 自主防災に関わってから災害や災難は自分に降りかからないという甘い考えを捨てました。(大條)
- 茨城県に住んでいた小学生の時、洪水のため小さな舟で高台の学校に避難したことがありますが、その時の怖さは今も忘れられません。水害も恐ろしいものです。(中井)
- 高齢化が進み、空き家や一人世帯が確実に増えてきています。地域ぐるみでの防犯・防災を日ごろから確認し、意識しておく必要を感じますね。(矢原)
- マンションでは生活時間が合わない、見事に誰にも会いません。プライバシー保護の問題もあり、新しい入居者の家族構成すらわからないことも。うーん、防災の面からもこれではいけないのでは。(大村)
- 大正12年9月1日、関東大震災発生。当時、草津駅前の広場には大きなテントが張られ、避難してきた人々がおられた。町内の炊き出しに大勢で、おにぎり・おかずを作りリヤカーで駅前まで運ばれた。その時どう動く!今どう動く!(中村)
- テーマ「防災」で60数年前ボーイスカウトで覚えた、「備えよ常に」を思い出しました。地震雷火事親父何にでも通用しますね。(橋詰)
- 「備えあれば憂いなし」で非常持ち出し袋を用意したり、「遠い親戚より近くの他人」でお互い助け合い、避難支援に取り組みましょう。(水谷)



「コミュニティくさつ」は、 みんなでつくる まちづくり情報誌です!

市民編集ボランティア

「コミュニティくさつ」は市民の皆さんと共に作成発行しています。本誌の企画、取材、寄稿、配布などを一緒にしてもらえ市民編集ボランティアを募集しています。写真やイラストが得意な方も大歓迎。

- 編集会議(3か月に1回)で意見を出し合える人
- 取材同行や寄稿をしてくれる人
- 写真やイラストを提供してくれる人
- 自身の町内会や団体メンバーに本誌を配布してくれる人



● 申込み・問合せ ●

(公財)草津市コミュニティ事業団
まちづくり振興課内
コミュニティくさつ編集部

「コミュニティくさつ」の経費(企画編集、印刷、折込など)は1部あたり15円です。この経費は事業団が行う公共施設運営管理(指定管理)などの経費縮減などで得る独自の収益金のほか、市民の皆さんからの寄付および本誌に掲載している企業等の広告でまかなっています。

